



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 71

PROFILE

1962年、大阪府生まれ。同志社大学法学部卒業後、新聞記者、フリーライターを経て2004年、『ハゲタカ』で小説家デビュー。『ハゲタカ』シリーズのほか、特捜検事が主人公の『売国』、農業をテーマにした『黙示』、東日本大震災の被災地を舞台とする『海は見えるか』など、意欲作を多数執筆している。写真は今年3月、ミャンマー取材時に国民民主連盟本部で撮影。

6月から、東南アジアの架空の国が舞台の、民主主義とは何かをテーマにした小説『プリンス』の連載を始めました。その取材のために、3月に新政権が発足したばかりのミャンマーを訪れました。ここはご存知のとおり、軍事独裁政権を経て民主化したばかりの国です。

政治は人々が生きていく上で必要なシステムです。治安が良く、機会が平等な社会でなくては政治は安定しません。そして、経済の発展のためには、政治の安定は必要不可欠です。独裁者が支配している国家は、無駄や非効率が多くなりますから、経済も停滞します。決めたことをきちんと遂行し、勝手な横やりが入らない社会を作るために、民主主義は大きな役割を果たすのです。そのため、ミャンマーをはじめとする多くの独裁国家は民主化に至り、経済発展に向かって進んでいるのですが、真の平等や民主主義まではまだ道半ばです。

他方、欧米や日本では、第二次世界大戦以降は政治が安定し、そのおかげで経済が発展しました。しかし、皮肉な

小説を通して読者に問い掛ける

小説家 **真山 仁**
MAYAMA Jin



ことに、経済が発展し、生活が豊かになるほど、人は政治や社会への関心を失っていきます。戦後の日本はGHQが敷いてくれたレールの上を素直に走って政治の安定と経済発展を手に入れてきました。その一方で、よほど真面目な人でなければ民主主義の重要性を考えることがなくなりました。

そうして社会が衰え始めると、人は憎悪の対象を求めるようになるのです。今の日本で、誰か、あるいは何かを憎み、「自分が正しい」と訴える人が増えているのは、社会が弱体化し、人々が不安を抱えているからではないでしょうか。

本来、民主主義は、たった一つの正義を決めるのではなく、人々が異なる意見を持ち寄り、同じテーブルに着いて議論して、社会に対する責任を分かち合う仕組みです。現在、開発途上国では、欧米より速いテンポで豊かになるに従って、民主主義が希薄化しています。それと途上国がどう向き合っていくか。そして、豊かさを失いつつある先進国で、人々がどう責任を分かち合っていくか。今、世界

は正念場を迎えていると私は感じています。

私が小説家を志したのは、無関心な人たちに小説を通して社会の問題を届けたいと思ったからです。読者は登場人物を通して問題を追体験し、物語の中の失敗や成功を通して自分の頭で考えるようになります。そして関心が芽生えれば、次に新聞や雑誌の記事、関連分野の書籍などを目にしたときに、それを手に取り、深く読むようになるでしょう。

小説だけでなく、漫画やアニメ、映画などは、社会に関心のない人たちでも気軽に触れることのできる力のあるメディアです。そんなエンターテインメントの吸引力を生かして、これからも問題提起を続けていきたいと思っています。

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で 検索